探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：江田島市立能美中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
江田島市立鹿川小学校	９	107人
江田島市立中町小学校	８	108人
江田島市立能美中学校	８	126人

（R4.11.1現在で記入）

１　研究の概要

（１）研究テーマ及び研究のねらい

①研究テーマ

児童生徒の探究的な学びが生まれる授業の創造
～小中９年間を見通した生活科・総合的な学習の時間の在り方～
〔小中連携教育の目標〕
ふるさとを愛し，ふるさとに学び，ふるさとに貢献する児童生徒の育成

②研究のねらい

小中９年間で育てたい資質・能力を系統的に育む生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムの実践と検証を行う。

（２）資質・能力の設定について

児童生徒の実態と生活科・総合的な学習の時間で付けたい力と関連を図り，次の三つを設定している。

主体性	自ら目標を設定し，その達成に向けて考え，判断し，探究活動に取り組もうとしている。
伝え合う力	探究的な活動を通して，異なる意見や他者の意見を受け入れ尊重し，協働して新たな価値を生み出そうとしている。
やりきる力	課題解決の過程においてあきらめず取り組み，最善解を導き出すことができる。

（３）取組について

【探究的な学習の充実に向けての取組】

- 育成を目指す資質・能力の系統表を見直した。
- 育成を目指す資質・能力を評価するためのルーブリックを児童生徒の実態に合わせて改善した。
- ＰＢＬの考え方を参考に，「本質的な問い」を立てた単元計画を開発し実践を行った。
- 各教科と生活科・総合的な学習の時間の関連を可視化し，共有した。
- 各教科においてもＰＤＣＡを意識した授業改善を図った。
- 資質・能力の育成を念頭においたカリキュラム・マネジメントアンケートを実施することで，目指す児童生徒像を達成するために，全教職員の共通理解を図った。

【小中連携の取組】

- 研究担当でリモートミーティングを活用し，推進協議会の事前打ち合わせ等を行った。
- 各学校の研究授業実施日を共有し，授業参観や協議会に参加することで，指導の連続性，系統性の理解を図った。（小学校⇔中学校）
- 校区全体会（６月，８月）を行い，児童生徒の学びの繋がりや教師の思いを共有することを通して授業改善を図った。

【資質・能力の評価】

- 毎時間の授業において，児童生徒に振り返りを行わせることで，自己の目標や単元の目標の達成度を自覚させるとともに，児童生徒に次時以降の活動の見通しをもたせた。
- 昨年度設定した育てたい資質・能力の系統表を，児童生徒の実態に合わせて文言を見直した。また，発達段階の繋がりを柔軟に設定できるように，9年間を「前期，中期，後期」の段階として系統表を修正した。

【小中９年間の生活科・総合的な学習の時間で育てたい資質・能力】

	前期（小１～小４）		中期（小５～中１）	後期（中２～中３）
主体性 やる気 自主性 課題発見力	自分の生活や住んでいる地域から，課題を見つけ，自分の生活を見つめ直すことができる。			
	身近な人・もの・ことに進んで関わり，意欲をもって学習したり生活したりすることができる。	課題を解決するために，自分から進んで，身近な人と協力しながら行動している。	課題を解決するために，自分から進んで，身近な人と協力しながら行動するとともに，他者の考えを受け入れよりよい解決を目指している。	課題を解決するために，自分から進んで，身近な人と協力しながら行動するとともに，解決への見通しをもち，他者の考えを受け入れよりよい解決を目指している。
伝え合う力 表現力 傾聴力	異なる意見や他者の意見を受け入れ尊重し，協働して新たな価値を生み出そうとしている。			
	自分の考えや思いを，言葉・絵・動作・劇・資料によって，相手に伝えたり，自分の学習を振り返ったり，自分の学習を振り返ったりすることができる。	伝える内容が，相手に分かりやすく伝わるように，目的に応じて資料を作ったり，複数の資料を組み合わせたりして表現することができる。	目的や相手に応じて，伝える内容を吟味したり，資料を再構成したりして，根拠を明確にして適切に表現することができる。	目的や相手に応じて，精査した情報を吟味したり，資料を再構成したりして，根拠を明確にして適切に表現することができる。
やりきる力 最後まで 粘り強く	課題解決の過程においてあきらめず取り組み，最善解を導き出すことができる。			
	自分のよさに気付くとともに，目標に向かって頑張ることができる。	自分のよさや可能性に気付き，夢や目標に向かって努力することができる。	自分の特性を生かして，夢や目標に向かって努力するとともに，自己を高めることができる。	高い志をもち，自分の理想に向かって努力を惜しまず，行動することができる。

２　実践事例

【探究的な学習の充実に向けての取組】

①鹿川小学校の実践

（ア）　第６学年単元「Catch Your Dream!～江田島とのかかわりをみつめて～」

江田島市の統計資料から，「少子高齢化による人口減少」という課題に気付くとともに，江田島には，自分達が知らない魅力的な「ひと・もの・こと」があることに気付くことで，江田島市のために自分達にも何かできることがないかを考え，実践した。見学して気付いた地域の魅力を，江田島の未来を担うであろう人たちに紹介したいという願いを達成するために，ＩＣＴ機器を伝えたリーフレットづくりや，「商品札」のデザインに取り組んだ。また市議会での提案も行った。単元を通して，自身の「キャリア」について考え，将来の展望に思いを馳せることを狙った学習活動に取り組んだ。

［ＰＤＣＡの繰り返しによる効果］

資料から気付いた魅力から学習をはじめ，実際に地域に出て，牡蠣や花づくりを中心とした，「地域で働く方々」と出会うことで，「江田島のために，自分達ならできそうなこと」を考えることができた。活動を構想する際には，相手意識や目的意識を明確にするように，児童とともに考えることができた。また，一度出来上がったものを，全員でもう一度見合って意見し合う時間を確保したことで，より良い課題解決に向けて協働的に学習をすることができた。

（イ）　第３～６学年共通単元「自分タイム」

児童一人一人が興味をもつ事柄について，「課題の設定」「情報の収集」「情報の整理・分析」「まとめ・表現」の探究のサイクルを意識した個人探究学習に取り組んだ。

［ＰＤＣＡの繰り返しによる効果］

本年度は，全学年，水曜日３・４時間目に総合的な学習の時間と生活科の時間を設定した。課題設定では，「児童一人一人の興味関心を大切にしながら学習を進めてほしい」という教員の願いを伝え，異学年の児童とも意見交換しながら，各自の課題を設定する時間を確保した。児童自身が興味のあることを，自分なりに設定した活動のゴールに向けて学習を進めるため，児童が生き生きと学習を進める姿が多く見られた。また，児童の思考を揺さぶる問いかけを行うことで，児童自身が課題や成果を見つめ直し，「もっと調べよう」や「こんなこともできそうだな」と自分なりに学習過程を捉え直すことができた。

［個人テーマの実際］

「小物入れづくり（裁縫）」「シャボン玉（実験）」「宇宙の模型作り」「花を育てる」「サッカーのシュート練習（成功率の向上）」

②中町小学校の実践

（ア）　第５学年単元「江田島の海を見つめて～ミラクルなかマリンオープン～」

本単元は，江田島の海の魅力や課題を踏まえて構想した単元である。前学年での「やさしいまちづくり」を受け，人だけではなく生き物にもやさしいまちをつくることに発展した。地域の自然，環境などの地域資源から課題をたて，探究的な学習を行い，自然に親しんだり，地域を支える人と直接かかわったりしながら課題を解決していった。そこから学んだことを表現，発信する活動を通して，地域を持続可能な社会として発展させていくための課題を理解し，自ら地域社会に貢献しようとする意欲を高めることができる単元である。

［ＰＤＣＡの繰り返しによる効果］

導入で単元構想図を使って，現在の探究活動の状況やゴール（目的意識）を確認することで，これまで情報収集してきたことを整理・分析する必要性を引き出した。

江田島の海に多くの種類の生き物が生息していることを魅力だと感じ，「実際に自分たちも見てみたい」「多くの人に見てもらいたい」という思いから，水族館をオープンさせるということに発展した。

オープンさせるためには，次々に出てくる新しい課題を解決し，生き物にやさしい飼育環境を考える必要があり，自分達の思いを実現するために，主体的に考えたり，行動したりする姿が多く見られた。また，自分の考えを広めたり深めたりするために，ペアやグループで話し合いの場をもち，友達の考えと比較しながら，自分の考えを表現していた。

情報収集や分析について，インターネットや本・図鑑で調べ，自分で調べても分からないことは，さとうみ科学館やみやじマリンの方にインタビューをしたり，講義を聞いたりした。また，地域や保護者と繋がりながら，海辺の生き物の観察会に参加して生き物の採集をしたり，水族館の環境を整えたりするなど，児童が協働的に１つの新しいものを創り上げようとする主体性が次第に向上していった。

［児童の単元の振り返りより］

江田島の海にはレッドデータブックにのっている生き物や様々な種類の生き物がいることが分かった。江田島の海の魅力を伝えるために，水族館オープンの間，海の生き物ガイドをした。海の生き物を守るためには，まず自分が生き物の生態について知ること，そして，分かったことをみんなに伝えることが大切だと思った。江田島の海の生き物を守り，環境を大切にするためにこれからも考えていきたい。

［ミラクルなかマリン来場者より］

○プレオープンと比較し，レイアウトの変更，展示物の増加，クイズなどたくさんの改善があり，とてもよかった。
○受付でパンフレットの渡し方，ガイドの時間のスケジュール等，さらに改善して，がんばってください。
○ガイドの皆さんの丁寧な対応でどんな質問でも答えることができ，すごいなと感心した。
○さとうみ科学館から生き物を借りてきたのかと思ったけど，自分たちで生き物を採集してきたところがすごいと思った。
○スタンプラリーの海の生き物クイズも難しすぎず，簡単すぎず，「へえ～！」となる内容で楽しかった。

③　能美中学校の実践

（ア）　第２学年単元「江田島が好きじゃけぇ，もっと知ってもらおうや！～本当の江田島の魅力とは？～」

江田島の様々なよさについて整理し，体験的にそのよさを理解し，自ら再発見した地域の魅力を他地域の中学校に発信する。また，それぞれの地域のよさについての交流を通して，新たな視点や考え方を身に付けることで，愛する郷土を語り合い，地域にどのように関わっていきたいかを考え発信する。

［ＰＤＣＡの繰り返しによる効果］

地域の本当の魅力を体験的に実感を伴った自分の言葉で語れていないという自己発見（課題発見）から，必然的な一人探究の時間を仕組むことができた。情報収集では，取材活動と生徒自身が決めたゲストティーチャーやキャリア・スタート・ウィーク，修学旅行先での他地域の中学校との交流など，様々なひと・もの・こととの出会いと感動を通して，自分の考えを見直し，新たな発見をしてきた。個人探究でインプットしたことをグループ探究でアウトプットすることを常に行い，自分の考えを再構築することを繰り返すことで，「出会い」から自ら課題を発見する力が身に付き，主体的な学びが促進したと考えられる。

［生徒の単元の振り返りより］

○　自分が「今日は○○を必ずする」と決めたとき，時間の配分や，計画を立てて行うことができ，効率的に活動ができたり，メリハリをつけたりすることができた。物事を進めるときに見通しを立てて先のことまで考えられるようになった。
○　ネットでは知ることができないことを知るため，ゲストティーチャーをお呼びしたり，実際にその場に足を運んだりすることができた。そのため，活動に対する主体的な行動力が身に付いたと思う。今後は，その行動力を使って，地域を巻き込み，地域に貢献できるような活動をしていきたい。

【個に応じた指導の充実】

・　生徒自身で自分の活動テーマを決定できるように，一人一人の生徒の興味関心について丁寧に把握することで，ファシリテーションの工夫と充実を図ることができた。また，それにより，「先生と子供，子供と子供，先生と先生」を繋ぐ手立てになり，児童生徒は，豊富な言語活動を通して学びを深めることができた。
・　担任以外に副担任や研究推進リーダーを配置することで，Ｔ・Ｔの活用や学習形態の工夫により，一人一人の学びに応じたきめ細かな対応を図ることができた。

３　研究の成果と課題等

（１）成果

・一単元の中で，児童・生徒が「探究のサイクル」を複数回行える単元を実践できた。
・カリキュラム・マネジメントを通して，各教科等との繋がりを意識した単元開発ができた。（各学年１単元の開発）
・校区全体会を通して校区内の小・小／小・中連携が図れた。
・地域人材との連携が図れた。

能美中学校区独自の児童・生徒アンケートでは，小学校の「自分が住んでいる地域のよさが分かる。」と中学校の「地域や社会を良くするために何をすべきかを考えたことがある。」において，全体の肯定的評価が80％以上を示し，広島県45.8％，全国40.7％（令和４年度全国学力・学習状況調査　児童生徒質問紙中学校調査結果）と比較すると２倍近い結果であった。

（２）課題

・児童生徒の興味・関心に基づいた学習課題の選定のための各学年の年間計画の見直し。
・教師の単元構想の工夫。
・より効果的なカリキュラム・マネジメントの実践。
・ルーブリックの質的向上。
・学校を支援してくれる地域企業の発掘。

能美中学校区独自の児童・生徒アンケートでは，「自分の考えを場面や状況に合わせて，分かりやすく相手に伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫している。」において，鹿川小78％，中町小88％，能美中78％と低い数値ではないが，実際の授業の中での教師の活動観察や見取りでは，発信時の状況や発信相手を想定した効果的な表現方法の工夫を十分に吟味しきれていないという評価がある。このことから，「表現の工夫」に課題があると考えられる。

（３）今後の改善方策等

・表現力を育成するために，発達段階や個に応じた表現方法に視点を置いた指導の工夫を図る。
・小中９年間で育成したい資質・能力を見直すとともに，系統性をもたせたルーブリックの改善を図る。
・より効果的なカリキュラム・マネジメントを行う上で，綿密な年間指導計画の見直しをする。
・児童生徒の興味・関心を基にした学習課題の選定を行う。
・教師が地域資源について研究し，地域人材との連携や開拓を進める。
・令和６年度以降も教員が継続的に連携・協働できる校区の組織作りを行う。